

【太田川学校間と子ども交流事業】

「教える事は学ぶ事！」 講師として初参加

5班 小迫富男

- ・ 10月9日(金) 安芸高田市向原小学校5年生 21名 : 安芸高田市「鷹巣山」
- ・ 10月21日(水) 広島市立山田小学校3年生 23名 : 白木町「スクウスクウの森」
- ・ 11月8日(日) 広島市西区己斐上学区子ども会育成協議会 35名 : 白木町「スクウスクウの森」



人工林で林業体験



木の伐り方を教わる



森の大切さに耳を澄ませる子ども達



森林体験の後でパチリ「己斐上子ども会」



ヒノキの木エクラフト

向原小学校からのお礼の冊子が届きました

講師として初めて参加させて頂きました。向原小学校では、この活動で毎年生徒達が森の役割について発表していたのですが、今年はコロナの影響で勉強時間が不足した為、発表が出来ないとの事で急遽指導員4名が地元に関係の深い動植物のテーマを1個ずつ与えられ発表を

しました。一夜漬けの知識での発表でしたが、皆熱心に聞いてくれ又自分自身も大変勉強になりました。そしてこの日はRCC中国放送のテレビクルーが今年の「TEAM 森づくり 2020」の広報の取材に来ていて、賑やかな学習会となりました。ちなみに10月20日のイマナマの番組の中で当日の活動内容が放送されました。午前中は主に伐木体験を実施し、健全な森林を保持する為の間伐の必要性、安全に木を倒す方法を指導しながら無事事故も無く伐倒しました。昼は保垣照山会がご用意くださった、豚汁をいただき昼からの鋭気を養いました。

午後からは、伐木した木を材料に各自思い思いの作品を作り、本日の思い出作りとして貰いました。最後に山本理事長から、「沢山の恵みを与えてくれる森にもっと関心を持ち、自分にも出来る、環境を守るということを少しでもやって行ってほしい。」と、生徒への願いが伝えられ、定時に解散となりました。山田小学校と己斐上子供会についても学年は様々ですが、内容は

ほぼ同じ。いずれも子供達にとって伐木の体験は大きなインパクトを与えた様子で、その事がより一層自然に深く関わるきっかけになればと思いました。私自身経験、知識共に十分ではありませんが、教える事は学ぶ事でもあるという事を教えてもらった3日間でした。

「太田川流域交流振興会議」主催による太田川学校間と子ども交流事業は、2003年から太田川流域の次世代を担う子ども達を対象に環境学習を実施しています。当倶楽部は「森林環境教育プログラム」の企画を提供し、希望の学校や子ども会を募り、毎年数団体の受け入れを行っています。現在まで18年間、約3,000人の児童を含む関係者の多くの方々に関わっていただいています。